

る負担額に企業債利息を含め3,928万円を計上いたしております。4目配水施設整備費につきましては、国県道及び市道などの道路改良工事及び公共下水道工事に伴う配水管布設替工事や消火栓新設など、9,490万円を予定いたしております。5目資産購入費につきましては2,090万円の計上で、量水器や機械及び装置購入費などでございます。2項企業債償還金につきましては、前年度より60.5%、1億2,717万9,000円増の3億3,729万円を計上いたしているところでございます。3項その他資本的支出の出資金につきましては、公営企業金融公庫から地方公営企業等金融機構への移行に伴います出資金100万円であります。

以上が平成20年度長井市水道事業会計予算の概要でございます。よろしくご審査賜りますようお願い申し上げます。

平成20年度長井市各会計予算案に関する総括質疑

- 大道寺 信委員長 概要の説明が終わりました。これより質疑を行います。
- ここで、総括質疑の発言通告がありますので、順次ご指名いたします。

小関勝助委員の総括質疑

- 大道寺 信委員長 初めに、順位1番、議席番号14番、小関勝助委員。
- 14番 小関勝助委員 それでは、しばらくの間、新年度予算が示されておりますので、通告に従いまして順次質問しますので、それぞれ答弁者の皆さんには簡潔明瞭な答弁をお願いした

と思います。

市長からは、平成20年度の新年度予算が示されております。内谷市長は、19年度は財政危機脱出元年、そういう位置づけで、聖域を設けず徹底した行財政改革に向けて努力したと思っております。

さて、ことし20年は財政健全化に向けた正念場として、19年度に改定した自立計画及び集中改革プラン、それに基づいて、歳入の確保、そして歳出の抑制を徹底して、選択と集中により施策の重点化を図っております。ぜひこの目的に向かって達成できることを期待申し上げながら、順次質問してまいります。

市長は2年目に入っておりますが、市政運営の基本、いわゆる本市の現状の課題について、3つ述べておられます。1つは経済の停滞、まさに本当に長井市は大変な状況にあるというのは、施政方針でも述べられているとおりでであると思います。2つ目が、やはり歯どめがきかない人口の減少、少子化の問題、そして3つ目には財政難、こういう認識に立って、市長は、今後、市民生活の目線に立って、将来の不安をなくす、これはいろいろ方法があると思いますけれども、自立はもちろんですけれども、これから質問に入る合併もその一つの手法だと、こう思います。

前置きはこのぐらいにして、順次質問しますけれども、その第1点は、新合併特例法内での合併は可能かについてお伺いします。

最初に、新野副市長にお伺いします。

一般質問でも副市長の出番が余りなかったということもありまして、ぜひ副市長のご見解をお願いしたいんですが、副市長は、副市長就任前、県の幹部職員として非常に活躍をしておられ、そして副市長になられてからも、内谷市長の補佐役として、本当に頑張っておられると、敬意を表したいと思います。また、副市長は就任する前は県の職員だということもありまして、

+

合併の情報、あと県の動き、そういうことについては、特に今の齋藤知事は合併には積極的な推進論者でもありますので、その辺、副市長の合併に対する思い、考え、そういうことがおありなのかなと、こう思います。

もう1点は、副市長になられて、非常にこのような厳しい財政の中で、市長を補佐して頑張っているわけですがけれども、よろしかったら現在の偽らない心境なども教えていただければと思います。

○大道寺 信委員長 新野 潔副市長。

○新野 潔副市長 ただいま小関委員の方から2つご質問をいただきました。

一つは、合併のことについて、どういう見解を持ってるかという話だったと思いますが、合併につきましては、私も1年以上前ですけども県職員だったころは、特に県の職員として、置賜地域の合併の推進について、特に合併機運の醸成を図れというような使命を受けておりました、そのような職務の中で、そういう動きをしておりました。特に置賜管内の市町長さん、あるいは議長さん等々との懇談会の場の設定とか、あるいは全体として機運を醸成するためのシンポジウムの開催とか、あるいは青年会議所等の、あるいは産業界の団体等への勉強会の働きかけとか、そういう仕事をしておりました。そういう関係で、私も合併については、人口の減少とか、あるいは厳しい財政見通しとか、それから地方分権時代の到来とか、そういうことから、やっぱり市町村が基礎的自治体として、サービスの低下を招くことなく、従来のサービスを維持していくためには、合併は必要なものだというふうに私は考えておりました。そういう意味では、今の内谷市長と全く同じ考えでございます。

特に県の情報というようなことでは、私がやっておった1年以上前のころよりも、特に今の県の齋藤知事の意向が働いておりました、従来

は機運の醸成を図れということだったんですが、今年度、19年度になりましてから特に、もはや合併に向けての機運の醸成というような段階ではなくて、もう具体的に着手し、実現を図るときだというふうなことで、各市町村長さんや、あるいは議会の議長さん等に直接的な要請をしているという段階に入っているというふうに思います。それによって、ことしは特に総合支庁では懇談会の開催とか、あるいは知事の直接的な要請をする懇談会の開催とか、そういうものがことしは特に数多く開催されていて、各市町の首長さんから意見を聴取している段階ではないかというふうに思います。

そういうことで、私としましては、長井市以外の各市町は、口では合併の必要性を説いてはいただけますけれども、なかなか具体的な動きになっていってないところが現状だというふうに思っております。いわゆる新法の期限内、22年3月というふうになってはいますが、その合併を目指して、具体的に任意あるいは法定の協議会を発足すべきだとはっきり言っているのは内谷市長と飯豊の町長さんぐらいではないかと思っておりますけれども、特に20年度中には西置賜3町、小国、白鷹、飯豊の3町、それから川西町の町長さんの選挙もございますので、その中で今後どのように動いていくかというのは見ていく必要があるというふうに思っているところでございます。

それから、もう1点、私の就任以来1年を経過しての感想というようなことでご質問がございましたけれども、私も長井市にお世話になって1年がたとうとしているところでございますけれども、この間を顧みますと、上期におきましては、ただいま小関委員からもご指摘がありました自立計画の見直しを通して、行財政改革に微力ながら取り組んだところでございます。特に内部経費の縮減、あるいは事務事業の全般的な見直しのほか、市民負担の増など直接市民

の方々に痛みを伴うようなものを掲げざるを得ませんでした。その結果については今議会の議案を通してご議論いただいているところでございますが、また、まことに遺憾なことではありましたが、職員に係る刑事事件、そして事務上の職員のミスなどの不祥事も発生したところでございます。今後の職員の管理のあり方について、早急な対応を求められている状況にあるというふうに考えております。

今、1年を振り返ってみたときに、多くのことが去来いたしますけれども、私にとりましては、能力の関係もありまして、困難な事柄も多くて、職責を十分果たせたかというところ、じくじたる思いがいたすところでございます。市長を始め議員の皆様方に多大なご迷惑をおかけしたと思っております。

一方、長井市が抱えている行政上の課題については、市長の施政方針に示されているところでございますので、私から特に申し上げることはないのですが、特に私は職員の、特に少数体制の中での組織のあり方について、これは課題だなというふうに思っております。また同様に危機管理、これもこれから考えていかなければならないというふうに思っております。これまで2度にわたる大きな行革によりまして、職員数を十分削減してきておりまして、類似の団体から見ますと相当少ない方にあります。しかし、業務量や住民ニーズが決して減っているわけではございませんので、組織としてよっぽど効率的な体制にしていけないと、行政サービスの低下をもたらすばかりでなくて、ミスなども発生しやすいということになると思います。今後ある程度の職員の補充を図るとともに、今は予算の関係で十分でない職員研修にも力を入れて、士気を高めて、少数でも効率的な体制にしていかなければならないというふうに考えております。

また、災害などに対応する危機管理体制の整

備についても早急に考えていく必要があると思っております。当面、そのようなことに力を入れてまいりたいというふうに思っております。以上です。

○大道寺 信委員長 14番、小関勝助委員。

○14番 小関勝助委員 どうもありがとうございました。豊富な行政経験をお持ちの副市長ですから、ぜひこれからも期待したいと思います。まだまだ副市長には聞きたいことがあるんですけれども、時間が過ぎてますので、またの機会にお願いしたいと、こう思います。

それでは、2番目の自立経営対策室の目的は達成されたのかについてお伺いします。

これについては、ちょうど思い起こせば去年の3月、いろんな議論をしながら、私も市長の熱い思いですか、行財政改革をやるんだというようなことで、自立経営対策室をきちっと立ち上げて、私が先頭に立ってやるんだということで、私もそういう熱意もあって賛成したんですが、何かことし1年もしないうちに、今度は総務課の方に組み入れたと。よかったのか悪かったのかなと、私、複雑な心境でおるんですが、過日の大沼議員の一般質問の中でも、ある程度痛みの伴うことも自立経営対策室でやったし、あと地区長連合会からも組織のスリム化ですか、そういうこともあって、そういういろいろ検討した結果、これをという話であったんですが…。逆になりました。1番目をちょっと飛ばしましたが、まずその点について、自立経営対策室長にお聞きしますけれども、本当に目的を達成されたんですか。そして、今後、新年度から総務課に編入されるわけですけども、ちょっと私、まだまだ冒頭に申し上げたように、行財政改革、今年が正念場なわけで、まだ途中だと思うんです。室長として1年間精いっぱいやられたわけですけども、その辺の考え方、ひとつお聞かせ願いたいんですが。

○大道寺 信委員長 遠藤健司自立経営対策室長。

+

○遠藤健司自立経営対策室長 小関委員のご質問
にお答えいたします。

自立経営対策室の設置目的が1年で達成されたかというようなことですが、1年前、市長の財政危機脱出元年を強力に進める必要があるという中で、私どもの室が設置されました。以降、平成18年2月につくりました自立計画の具体的な目標、事項、額を入れて進めというふうな命でございましたので、先ほど副市長からも答弁ありましたが、8月、9月まで、各課の課長、職員からヒアリングを行いまして、全般的な事務事業の見直しをさせていただきました。それを3回ほどの内部の行財政改革推進本部会議を持ちまして、全庁的なものにしようというふうな中で、共通の認識を持ちながら検討し、そして、多分自立計画では具体的な項目は70ぐらいしかなかったと思いますが、今回は見直しで160ぐらいの細かいところまで各課が検討していただいて、持ち寄って、そして実施計画というふうなことで進んで、予算編成に向かわせていただきました。ですので、そういう一つの19年度に目指したものにの一步はきちんと踏み出したし、組織のものになる一步はできたのかなというふうな思いはします。

ただ、1年というふうなお話はごもっともなわけで、今後の進捗管理というのは非常に重要になってまいりますし、この秋以降、各地区の皆様、車座集会あるいは市長の市政座談会等で市の行革の取り組みを説明してまいりましたし、まだまだそれが必要かというふうに思っております。

この1年で室、総務課の中に編成されることになりましたが、その動きはとめてはいけませんし、取り組んでいくべきだろうというふうに思います。また、今回、各課の方で見直していただいたそれぞれの業務については、今後とも改善、効率化、そして市民の皆様への説明ということ自分たちのものとして取り組んでいけ

れば、自立経営対策室の当初の目的は、1年で不十分ではありますが、達成したかなというように感じております。以上でございます。

○大道寺 信委員長 14番、小関勝助委員。

○14番 小関勝助委員 不十分であったが、達成されたということですか。私はまだまだそうではなかったのかなと思うんですが、今、室長としていろんな考えを述べられましたので、これ以上、私、言いませんけれども、引き続き気を緩めないで頑張っていたきたいと、こう思います。

順序が逆になりましたけれども、3市5町で勉強会をされていますよね。これ、米沢の安部三十郎市長が選挙公約でもあって、勉強会をするということで、恐らく長井市からもどなたか入られると思うんですが、どなたですか。そして、今、現況はどうなっていますか。私は何で今さら勉強会なのかなと、そんな思いもするんですが、その辺の中身について具体的にお願いしたいと思います。

○大道寺 信委員長 遠藤健司自立経営対策室長。

○遠藤健司自立経営対策室長 小関委員の置賜3市5町の勉強会の現況について申し上げます。

経過についてはご案内のとおり、昨年12月に米沢市長さんが、選挙を終わられてから置賜の各首長さんを回って、呼びかけて、開催された勉強会で、第1回が1月19日に開催されております。勉強会につきましては、合併論議の参考とするために、各種データを3市5町のものを持ち寄って、モデルを作成することを目的として、ことしの5月までを当面の期間としながら、財政論とまちづくり論、コミュニティ論、あるいは各市町長さんからご指示があったものを検討しようということで、置賜が一つになったということ前提として検討を進めている勉強会でございます。構成は、米沢市の企画調整部長が事務局長、その他3市5町の合併担当課長、加えて置賜広域行政事務組合の事務局長、10名

で構成をされております。

1月の第1回の会議では、3市5町の合併のモデルをつくるという基本方針を確認、あと鶴岡市の方から担当の課長に来ていただいて、講演を受けたところでございます。

2回目は2月18日に開催されました。内容は、勉強会が発足後、各市町から集めた財政指標、各種資料等について、他の東北の同規模、20万人以上の規模の市との比較などをして、検討をしました。また、今後の勉強となる先進事例をどちらの市にお話を聞こうかというようなところも検討したところでございます。

3回目は、去る3月7日に開催されまして、このときは、またデータを持ち寄ってまいりまして、各市町の公共料金のデータ、あるいは市の総合計画、町の総合計画、あるいは特色ある単独事業等がどういったものがあるかなどを情報交換したというふうな勉強会をしているところでございます。

また、勉強会の進捗、今まで3回ですが、これにあわせ、各市町長さんの会議を予定されております。これが4月2日に各市町長さんの会議が予定されております。また、勉強会については、4月の中旬にまた第4回目を開催するというふうな予定で進んでいるところでございます。以上でございます。

○大道寺 信委員長 14番、小関勝助委員。

○14番 小関勝助委員 市長にお伺いしたいんですが、3月6日の山形新聞に、原田川西町長の見解が出てますよね。やはり温度差があると、このままでいいのかというような危惧感を持っていると、そういう原田町長の見解が出てますけれども、市長は現在、この勉強会でどのような考えをお持ちですか。お聞かせ願えればと思います。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

私は、現在の勉強会については、やらないよ

りはやった方がいいわけですから、そういう意味では、少しでも前進ではないかというふうに思っております。原田町長の発言については、ごもっともな面はありますけども、やはり置賜3市5町で真剣に検討しようという意識がないと、前には進まないというふうに私は思っておりますので、そういった意味では、原田町長と少し考え方が違います。

○大道寺 信委員長 14番、小関勝助委員。

○14番 小関勝助委員 私も同感です。

3番目に入りますけれども、市長は施政方針で具体的に合併についての考え方を言われております。特に新法ですか、平成22年の3月までなわけですが、これに余りこだわってということをおもっておりません。これは合併というのは相手があることですから、きちっと近隣の市町との信頼関係を醸成しながら、特に市民や住民の考え方、これも大事です。また、我々議会も当然対応が必要になってくるわけですから、そういう中で、市長も残り2年と期限が迫った新合併特例法内の合併については、10年、20年先を見据えながら議論を深め、そして「東北一魅力ある長井」とは、白鷹町、飯豊町を含めた1市2町の長井都市圏と述べておられますけれども、やはり合併は一、二年ではなかなかできるものではないと私もこれは同感です。やはり将来に向けてきちっとした考え方を持って、そして相手があることですから、そういうことも大事なのかなと、こう思います。

ここに参考までに、合併した優良事例ということで、優良町村というような記事がございます。これは全国で4町ほど載っておりますけれども、この4町の中に山形県の町が入っております。一つは北海道の栗山町、これは去年ですか、我々議運でも勉強してまいりました。いわゆる議会の基本条例。もう一つは長野県の箕輪町、そしてもう一つは鹿児島県のさつま町、そして4つ目が山形県の庄内町、これは平成17年

+

の7月1日に合併されております。これは立川町と余目町、市長もコンパクトシティーという構想をお持ちのようですけれども、合併されて2万4,000人、非常に有効に、合併のモデルだと、庄内町は、隣には酒田市、鶴岡市もあるわけですが、余り大きいだけではないというような記事があるんですけれども、やはり私も市長が申されているように、近隣の白鷹町、飯豊町、大体5万人ちょっとであるんですか、こういう合併がまず、3市5町はもちろんそれは理想なんです、今の状況ではそれは私はちょっと、かなり難しいということなんです、その辺、もう一度、決断をするというようなことで、市長も施政方針で決断するときだというふうな記述をされていますので、もう一度その辺の考え方について、具体的な考え方があったら教えていただきたいと思えます。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 答えいたします。

施政方針での決断ということにつきましては、あと2年間しかございませんので、合併を20年度に何らかの形で、例えば副市長も答弁されましたけども、任意あるいは法定の協議会というものを、逆のスケジュールからいって、やはりことしの秋口ぐらいまで、何らかの決断をしなければならぬというふうに思っているところでございます。

小関委員から質問のあった西置賜といいますか、1市2町の件ですが、私は、1市2町でできるかどうかというのは、これから努力しなきゃならないと思っておりますけども、やはり長井にとって、あるいは両隣の白鷹、飯豊にとっても、一緒に行動がよりいいだろうと。私は、置賜の均衡ある発展を考えた場合は、3市5町でいくべきだと。人口の推計もあるように、西置賜はこれから30年後、非常に過疎に苦しむと思えます。ですから、私は、3市5町でやるか、もしくは1市2町で同一行動をとるかというふ

うに考えてまして、中途半端に東南置賜と合併すると、なかなか西置賜の我々は大変なんじゃないかなと、そのように思っております。

○大道寺 信委員長 14番、小関勝助委員。

○14番 小関勝助委員 私も、そういう考えが必要ですが、ただ気になることは、さっき副市長も触れられましたけれども、ことしは、1市3町ですか、小国町、それから白鷹町、飯豊町、首長選挙があります。どれかと言うとやっぱり、新しい首長になるかわかりませんが、どうしても合併が停滞したり戻ったり、そういうこともあり得ますので、あるかどうかはわかりませんが、余り時間はないと思えます。やはり早い機会に近隣の白鷹町、飯豊町、首長さんと話を詰めておく必要があるのかなと思うんですが、特に内谷市長は合併には積極的ですので、そして今、私も西置議会で見てますと、非常に1市3町、長井、西置賜はいい関係であるなど、そんな感じを持っていますので、その辺、市長、具体的に各首長さんと合併についてどのような話を今進めておられますか。もしおありでしたらお聞きしたいと思います。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 答えいたします。

年が明けてからはなかなか予算編成あるいは車座集会などで、私の方から出向いて話をするというはまだまだできておりませんが、昨年の暮れあたりはそれぞれ、小国町長さんとは具体的にお話ししておりませんが、飯豊、白鷹の両町長さんとはお話をさせていただいたところです。しかしながら、ずばりという言い方はしておりませんので、何回か回数を重ねて話をしなきゃいけない、合意を得られるように努力しなきゃいけないと思っております。

なお、小国町さんについては、1月の11日の知事との3市5町の首長の懇談会の中で、小国町の実情を話されておまして、その中で、私は、小国町としてはこれからも独自の自立の道

を歩むのかなというふうにそのときは思ったところでございます。

○大道寺 信委員長 14番、小関勝助委員。

○14番 小関勝助委員 ありがとうございます。合併については非常に期限が決まっているわけですが、やはりこれは余りこだわらないで、近隣の市町といろいろ話を詰めて、一方では3市5町の勉強会もあるわけですから、その辺じっくり、市民の声なども、今、市長、車座で聞いているわけですから、これからひとつ合併に向けて頑張っていたきたいなということで、この項についてはこれで終わりたいと思います。

それでは、2番目の長井ダムの周辺環境整備に向けて、これについてそれぞれお伺いします。

これについては、私、9月の一般質問でも市長の考えを聞いておりますので、今さらまたということは避けて、具体的なことを聞いてみたいと思います。特に一般質問でいろいろ答弁いただいておりますが、あれから6カ月ほどたっていますので、そのことについて、まず最初に、実施プログラム、これが出ました。それによっての実実施計画も出ております。そして、この財源については、9月議会でもいろいろやりとりさせていただきました。電源三法の問題もあります。そしてこれからは水源地ビジョン、こういう基金などもあるということを知っております。その後、どのような財源についての経過があったのか、松木企画調整課長からお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

○大道寺 信委員長 松木幸嗣企画調整課長。

○松木幸嗣企画調整課長 小関委員のご質問にお答えしたいと思います。

9月からの財源確保等々についてのお話でございますが、9月議会、またご指摘のとおり、電源三法にかかわる交付金というようなことをご紹介申し上げているところであります。具体的に言うと電源立地促進対策交付金という形に

なるわけですが、そちらについては、ことしは実施プログラムを策定ということでございますので、ことしをそのお金を使うということではなくて、プログラムができた後に必要な部分に使いたいということでございまして、ことしは県の方にその部分を事務的に詰めさせていただいているということです。事務的という部分も複数年度をある程度目途にしながら、20年度に具体的な詰め方をしまして、21年度に具体的なお金を入れていただくという作業を今年度から行っているところでございます。

○大道寺 信委員長 14番、小関勝助委員。

○14番 小関勝助委員 ぜひ、せっかくこれまで積み上げてきた計画ですから、これがお金がなかったためにできなかったとか、やはり後で悔いのないように、ダムも20年で完成してまいります。ですから、やっぱり今、特に20年度、きちっとすることをしていただかないと、なかなか周辺整備、周辺整備も具体的に絞られてまいりましたので、このそれぞれの周辺整備、予算はいつごろきちつとなるんですか。タイムスケジュールもあると思うんですが、その辺、もしおありでしたら、企画調整課長。

○大道寺 信委員長 松木幸嗣企画調整課長。

○松木幸嗣企画調整課長 前段で申し上げました電源立地促進対策交付金、これは一つの有力な財源と思っておりますが、私どもなり委員にご説明させていただいた中で、やっぱり強力なのは、ダム事務所の持ってます補償工事ということがあろうかと思っております。こちらの方につきましては、実施プログラムの中においてはダム事務所とも相当調整が進んできているということがございますので、そちらの部分と調整させていただきながら、やはり21年度からの工事の方に張りつけるということを進めたいと思います。

また、実施プログラムはできたわけなんですけども、庁内の調整がこれからであります。ほかの例えば農林部門なり、ほかの部分のところ

+

からの事業が何らかをつぎ込めないかというような調整も残っております。多少時間はかかっておりますが、現在できておりますプログラムになるべくお金を充てていくという作業を今も事務的には進めさせていただいておりますので、来年なりにはある程度の姿が出てくるものと思っております。

○大道寺 信委員長 14番、小関勝助委員。

○14番 小関勝助委員 ぜひ、後で悔いの残らないような、ひとつ予算の確保なり、一つでも多く周辺整備が実現できるようなことでお願いしたいと思います。

それでは、次に移ります。まなび館です。これインフォメーションセンターですので、ダムが終わると市の方に返還すると聞いています。これについて、いろいろな組織で今、議論されていますけれども、具体的にこの運営主体、これが今考えられるのはどうなのか。

あとスキー場関係、これは教育長の方にお伺いしますが、長井市には2つのスキー場があるわけです。道照寺平スキー場と白山森スキー場、それぞれによさがあるスキー場だと私は思っています。過日、両スキー場の関係者が話し合いを持たれたと聞いてます。長井市では21年ですか、一つのスキー場にしたいというようなことがあったり、あとこういうことが我々の地元の地区に流れてますので、「どうなってるんだ」と、私、聞かれますので、ちょっとその辺、どう整理されたのか、ひとつ具体的な一本化の計画があったら教育長にお聞きしたいと思います。

○大道寺 信委員長 松木幸嗣企画調整課長。

○松木幸嗣企画調整課長 私の方からは、まなび館についての考え方について申し上げたいと思います。

こちらについても実施プログラムを策定する際、意見交換会ということを持たせていただきました。一番ポイントになったのは1月の16日

あたりのまなび館に関する運営のお話かなと思っております。その中で出ましたお話は、運営については民間の力を借りたいというのが基本原則で確認されたかなというふうに思っています。ただ、簡単に民間の力を借りてやろうということに、なかなか難しいものがあるというふうに思ってます。現在、国の調査事業、流域一体化による水源地域活性化促進事業、国が一応調査していただいている事業がございます。こちらの方から民活による運営と一体どうなのかというようなことを整理していきたいというふうに思っています。当然のことながら、意見交換会でも出てます登山客でありますとか釣り客、そういった方々へのインフォメーション機能であるとか、意見交換会で出ましたご当地が持っている歴史的な機能、遺産とかもあるというふうにお聞きしています。そういった学習展示機能、さらには周辺のグラウンドゴルフといいますか、そういうのを整備して貸し出ししていくというようなことがいろいろ出ておりますので、こういった部分をまとめて、民間の力を借りた運営の仕方、さらには、農協さん等から収益事業もある程度可能なのではないかなというようなご意見なんかも出ております。これらをまとめていきたいなというふうに思っています。

なお、なかなか運営費等々について、多額なものがかかるかなというふうに思っていますが、これについても今、国とも調整させていただいて、なるべく圧縮していくという方向で、まなび館の運営については考えているところでございます。以上です。

○大道寺 信委員長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 市営スキー場の一本化については、集中改革プランの中でも平成21年度から実施するように示されていますので、教育委員会の方としても、21年度から実施を目指して検討しています。検討委員会を設置して、検討委員会のメンバーというのは、体協の会長、両ス

スキー場の運営委員会の会長、長井スキー連盟の会長・副会長、小学校体育振興会の会長、市の中体連の会長、そして長井市女性スポーツ団体連絡協議会の会長、8名で、今年度、10月と2月に検討委員会をして、検討をしました。現状のままであればということですが、ゲレンデの斜度とか、または照明設備があるとか、交通アクセスの面とか、そういういろんな面から検討したんですが、スキー大会なんかもできる白山森スキー場に一本化するのがふさわしいんじゃないかというような結論というか、方向性が出されています。ただし、さっきからあるように、道照寺平の周辺整備の問題もありますので、その青写真がきちんとできた段階で、また整備がきちんとされた段階で、もう1回検討する必要があるんじゃないかというような方向で集約されているところです。

○大道寺 信委員長 14番、小関勝助委員。

○14番 小関勝助委員 今、教育長からスキー場の整備、周辺一帯、出ましたが、市長、これは白山森、道照寺平、それぞれの今までの歴史なり整備手法なりあったわけですが、今後、特に道照寺平スキー場はダム規制もありますので、スキー場については一本化、やはり私も、聞くところによると当面は白山森一本化というようなことを聞きましたが、将来に向けて、もし市長の考えがおありでしたら、お聞かせ願いたいと思います。道照寺平スキー場一帯の整備です。

○大道寺 信委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 まず、スキー場の一本化につきましては、小関委員が今お話しなされたように、21年からは一本化にするということで、当面、白山森スキー場の一本化でまいりたいと、そして、ダムの方が22年まででございますので、21、22、できればその2年間で、スキー場の方については整備を進めてまいりたいというふうに思っておりますが、どのぐらいの負担がかかるか

については、いろんなやり方がございますが、それらについては、今、整備の仕方については検討中でございます。

なお、一帯の整備ということについては、また別に考えていかざるを得ないのでないかというふうに思っております。

○大道寺 信委員長 14番、小関勝助委員。

○14番 小関勝助委員 スキー場についてはどちらも動いていますので、少し利用者や運営協議会の合意形成が必要なのかなと思いますので、ひとつ今後慎重に進めていただきたいと、これはお願いです。

それでは次に、おきたま森の感謝祭、これについては教育の方から私お伺いしますので、教育長にお願いしたいんです。これには農林予算として、新年度予算に118万3,000円ですか、これが予算化されてます。これも小学校の方中心に植樹されて、これネーミングがいいですね、21世紀不伐の森。不伐の森は伊佐沢にも兄貴分ですか、先輩分があるわけですが、いいアイデアだなと思ったんですが、あそこは非常に場所もいいです。車でも行けます。ですから、ぜひこれを成功していただきたいことと、やはり木を植えてもなかなか、その後の管理が大事なので、その辺は、まず植樹祭がこれから、10月18日でしたか、あるわけですが、一過性でなくて、今、環境問題もかなり議論されますので、学習の場として、ぜひここを周辺整備の一つとして整備いただければと、こんな思いもしますので、教育長の考え、もしあったらお聞かせ願いたいんですが。

○大道寺 信委員長 大滝昌利教育長。

○大滝昌利教育長 植樹祭の方は教育委員会の方でなくて企画調整課の方なんですけども、昨年、ダム係の方から話があって、10月18日に今のところ予定だそうですけども、市内の小学校6年生全員、何とか協力をお願いできないかという話でしたので、これを学校の方に話をして、来

年度の教育計画の中に位置づけをしてもらっています。さっき小関委員からあったように、大変環境問題、今、各小中学校でも取り組んでいますので、そういう面では大事にしたい行事だなというふうにも思いますし、今後の管理のあり方等については、やっぱり企画調整課の方といろいろ話をしながら検討してまいりたいというふうに思います。

○大道寺 信委員長 14番、小関勝助委員。

○14番 小関勝助委員 ぜひ森の感謝祭という趣旨を大事にさせていただいて、今、教育長が申されたようなことで、今後進めていただきたいなと思います。

それでは、最後の項、野川管野発電所、これ第一発電所といいますので、跡地について、これについて企画調整課長にお伺いします。

この跡地については、最初大きな、環境整備の中で水車小屋構想がありました。ただ、なかなかそれは予算的なものがあり、後の維持管理が大変でしょうというようなこともあって、今見直しされていると伺っています。この跡地については、特に西根の皆さんが関心をお持ちで、西根の観測協の方がいろいろアイデアを出していると聞いていますが、今この跡地の整備についてどのような進捗状況になっていますか、まず最初そこを教えてください。

○大道寺 信委員長 松木幸嗣企画調整課長。

○松木幸嗣企画調整課長 旧発電所の跡地ではありますが、昨年の11月に西根の観測協の方なりとまず現地を見ながら、一たん意見交換させていただきました。また、2月に入ってからも意見交換、また随時観測協に呼ばれながらも、お話をさせていただいてきたところでもあります。

そういった意見交換を踏まえまして、委員ご指摘のように平成15年当時の計画では、確かに水車村構想ということがございました。ただ、運営でありますとか維持管理等々を考えると、あと物理的な条件なりも示しながら議論し

てきましたところ、現段階では水車村構想を計画変更するというところで、より現実的な整備というふうなことを考えておるところであります。

こちらは地元の方ともお話ししたところ、発電所そのものが山形県企業局の発電所として県内第1号であるという非常にメモリアル的な要素もあるということがございまして、そういった記念公園的な意味合いを持たせて整備しているというふうな話がまとまってきてるかなというふうに思っています。

また、西根地区の皆さんでは、非常に一番熱望なさってると思いますか、要望が高かった現在の南部西横線から今のつけかえ林道に結ぶというラインを発電所の補償工事の中で行っただけでないかというようなことをダム事務所と折衝して、ほぼ事務所の方も理解を得られたなというふうな感じで思っていますので、現地としては発電所よりやや北側といいますか、山側の方に道路をセットして、手前の方に記念公園的なものをセットしていきたいというふうな考え方であります。以上であります。

○大道寺 信委員長 14番、小関勝助委員。

○14番 小関勝助委員 今、企画調整課長からいろいろ説明がありました。これってダムが終わると整備進むと聞いてるんですが、その辺、今、長井ダムなり当然企業局がするわけですが、その辺、時期的な問題、当然予算ですか、それが絡むわけですから、そこをタイムリーにしていかないとなかなか難しいのかなと。まして道路整備ということになりますと、ここをきちっとした理由づけが要ると思うんですが、その辺どのようなこれから進め方を考えていらっしゃるでしょうか、いわゆる今言った南部西横線へのアクセス道路の整備計画です、そこをうまくタイムリーにしていかないとなかなか難しいと聞いていますが、その辺はどのようにお考えですか。

○大道寺 信委員長 松木幸嗣企画調整課長。

○松木幸嗣企画調整課長 委員おっしゃるとおり
でして、非常にダムの完成が22年ということが
後ろが決まっていますので、タイムリーに行いた
いというふうに思っています。まずは、道路そ
のものを22年までにとにかく上げるというこ
とが大事かなというふうに思っています。公園そ
のものは、これまた調整、企業局なりもある程
度応援していただけるという話もいただいでる
部分もございますので、22年には着工なり、物
として整備の方に向かっていきたいというふう
に思っているところです。以上です。

○大道寺 信委員長 14番、小関勝助委員。

○14番 小関勝助委員 それぞれ丁寧な答弁を
いただきましてありがとうございます。

私はこれで質問を終わります。

蒲生吉夫委員の総括質疑

○大道寺 信委員長 次に、順位2番、議席番号
17番、蒲生吉夫委員。

○17番 蒲生吉夫委員 通告しております4点
について、順次お聞かせ願いたいと思いますが、
最初に、平成20年度長井市まちづくり基金の申
請状況と審査についてということで、申請の一
覧と申請書のコピーをいただきましたのですが、
最初、商工観光課長にお尋ねいたします。

私は2年目になって、1年目のときも質問を
したわけですが、まだどういうものに適用
するかみたいところがあんまりわからなくて、
申請する方もしてきた感じがあったんだと思
いますね。今度それがどういうものに該当して助
成を受けられたというのが、1年経過すること
によってわかってきたというふうに思うんです。
ただ、結構ハードルが低くてもいいんだとい
う感覚でとられたところも結構あるというふう
に私は思ったんです。

その中で、今回申請あったのは15件、取り下
げとなっているから14件ですね、失礼しました、
あるわけですがけれども、ハードルが何となく私
下がったなというふうに感じているんですけど
も、いかがでしょうか。もちろん上がった部分
もありますよ、だけど平均すると下がったなと
いうふうに私は感じたんですけども、どうでし
ょうか。

○大道寺 信委員長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答えいたします。

平成20年度の事業の中には、景観保全部門等
で建物の保全事業というふうなものも申請も今
回ございました。それから、観光交流部門とい
うふうなことではございますが、菓子組合ある
いは麵組合等々の産業関係の団体などが中心に
ならなれた商品化事業というふうなものもござ
います。それから、まちなかの活性事業とい
うふうなことで、山形工科短大による空き店舗
活用事業というふうなものの申請も出されてご
ざいます。当初といいますか、まちづくり基金
の期待する部分にかなり近づいている部分があ
るのかなというふうな感じがいたします。

今、委員ご指摘のハードルがといたしまし
ょうか、やってみよう、申請してみようとい
うふうな気持ちになっているところがあるの
ではないかというふうなことではございますが、
それぞれの団体、一生懸命考えていただいて、
まちづくりに資したいというふうな考え方
があるかというふうに思います。それを基本
にして頑張っているというふうなことには
間違いはないというふうに思っています。
以上です。

○大道寺 信委員長 17番、蒲生吉夫委員。

○17番 蒲生吉夫委員 文化庁の登録有形文化
財に指定されている部分なんかもあって、そ
こはやっぱり趣旨に極めて近づいた申請だ
なというふうに思っているところがありま
すが、実際に申請書としてこのコピーの中
にあるのは14のうち10が採択になったん
ですね。こ